

防災検定 1 級 サンプル問題

1 防災（一般）

問題 1 防災において、情報は非常に重要な役割を担っている。災害に備えたり、避難したりするからである。こうした防災に関する重要な情報については、実際に発生した災害の状況や対応に関して検証を行い、そこから得られた教訓を踏まえて、不断の見直しが行われている。防災に関する情報の見直しに関して、**ふさわしくないもの**を次のア～エから 1 つ選び、記号で答えなさい。

ア 2014（平成 26）年 9 月 27 日に発生した御嶽山の噴火災害を踏まえ、気象庁では、噴火警戒レベル 1 及び噴火予報におけるキーワード「平常」の表現を、活火山であることを適切に理解できるよう、「活火山であることに留意」に見直した。

イ 2011（平成 23）年 3 月 11 日の東日本大震災で、実際の津波の高さが予想した津波の高さを大きく上回ったことから、2013（平成 25）年 3 月、気象庁は、津波警報を見直し、マグニチュード 8 を超えるような巨大地震に関しては、予想される津波の高さを「非常に高い」や「高い」という言葉で発表することとした。

ウ 熊本地震を契機として、気象庁による余震に注意を促す呼びかけが見直され、地震発生直後の地震活動に関して、「最初の大地震と同程度の地震」に注意を呼びかける内容になった。

エ 2016（平成 28）年 8 月の台風 10 号による被害を契機として、避難情報の一つ「避難準備情報」の名称が「避難準備・高齢者等避難開始」に変更された。

問題 2 次の文章は、災害救助について書かれた文章である。（ ）に当てはまる言葉を書き入れなさい。

災害救助は、自然災害が発生した場合に、応急的に必要な救助を行い、被災者の保護を目的とする活動である。地方自治体や日本赤十字社などの協力を得て、（ ① ）及び救助実施市が行なう。

活動内容としては、避難所や応急仮設住宅の設置、食料や飲料水の支給、衣服や寝具など生活必需品の支給、医療・助産、被災者の救出、（ ② ）などである。

2 防災（災害別）

問題3 次の耐震基準に関する文章について、**ふさわしくないもの**を次のア～エから1つ選び、記号で答えましょう。

- ア 多くの建物に被害がでた宮城県沖地震の経験を踏まえて、1981年の建築基準法改正で定められた。
- イ 耐震基準を満たした建物は、震度5程度の地震では建物に損傷を生じず、震度6強～7程度の地震では倒壊・崩壊しない性能があることを示している。
- ウ 耐震基準は、建物が持つべき最低限の耐震性能を示す基準のことである。
- エ 1981年以降、耐震基準の改正は行われていない。

問題4 近年、積雪の少ない地域では、大雪による交通障害が広範囲に生じ社会生活に大きな影響を及ぼしている。このことから、気象庁では、関東地方および東海地方等（茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、静岡県、愛知県、三重県）での大雪警報・注意報の基準を2016（平成28）年11月から以下のように見直した。基準の見直しによって期待される効果について、**ふさわしい組み合わせ**を次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

	(大雪注意報基準)	(大雪警報基準)
旧	24時間降雪の深さ 5～10cm	24時間降雪の深さ 20～30cm
	↓	↓
新	(A)時間降雪の深さ (B) cm (路面凍結防止剤の散布等を行う積雪深)	(A)時間降雪の深さ (C) cm (平地の主要道路等で除雪を開始する等の積雪深)

※上記は平地の値。山地はより深い積雪で影響が出るため値が異なる。

- ア A (24) — B (5) — C (20)
- イ A (24) — B (10) — C (30)
- ウ A (12) — B (5) — C (10)
- エ A (12) — B (5) — C (20)

3 自然災害

問題5 あなたが学校で子どもたちに、将来発生が予測されている「南海トラフ地震」について教えると仮定する。下の資料を参考にしながら、次の①～③に関する南海トラフ地震の特徴について簡単に説明をしなさい。(箇条書きで)

図7 南海トラフ地震のイメージ図

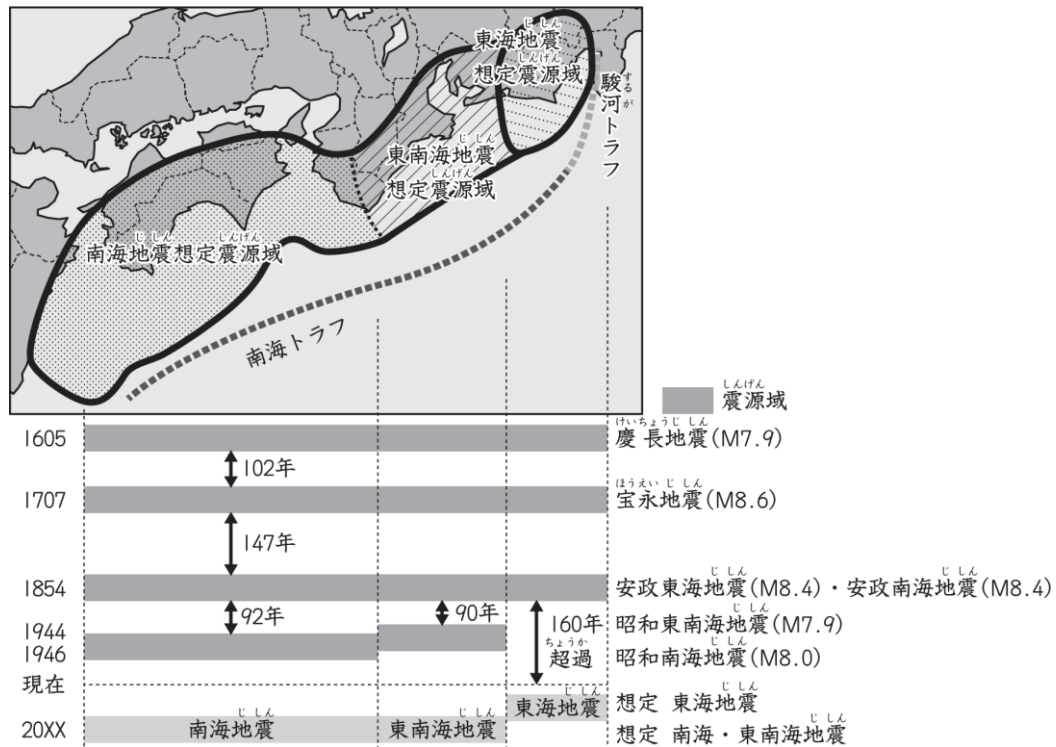
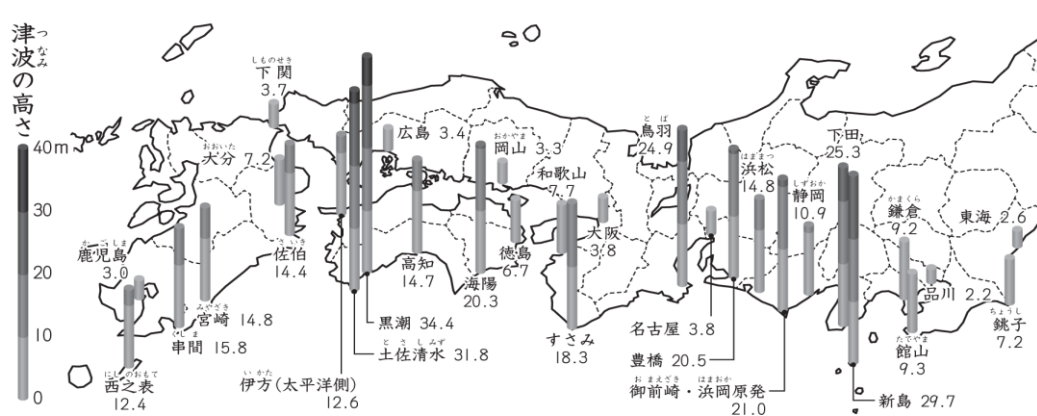


図8 南海トラフ地震の津波想定



- ① 発生周期 100~200年の周期で発生する。
- ② 被害の発生範囲 四国、近畿、東海を中心に、九州、関東など非常に広い範囲。
- ③ 津波の高さ 10mを超える巨大な津波が発生する。

問題6 次の猛暑に関する文章について、() に当てはまる言葉を書き入れましょう。

猛暑は熱中症を引き起こします。熱中症は、体温上昇による障害ですが、高温の環境で (①) や労働を行うとよりかかりやすくなります。高温の環境で体温が上がると、身体は体温を下げるために発汗します。発汗が続き体液が失われ体液が不足(脱水症)すると、身体はそれ以上に体液を失わないよう発汗を止めます。そうすると、発汗で体温が下げられなくなって体温上昇による障害が起きます。

体には、多くの水分(体液)が含まれており、新生児で約80%、成人男性で体重の60%、高齢者で50%を占めています。例えば、体重が70kgの成人男性の場合、体内の水分は42Lとなります。水分を5%失うと脱水症状や熱中症などの症状が現れ、水分を10%失うと筋肉のけいれん、循環不全が起こります。水分を20%失うと死に至るとされています。熱中症は、真夏の暑い時期以外にも、梅雨明けの蒸し暑くなった時期にも見られます。この時期は身体がまだ暑さに慣れていないため上手に汗をかくことができず、体温をうまく調節できないからです。暑い日が続くと、次第に身体が暑さに慣れてきます。これを「(②) 順化」といいます。

解答

問題1 イ

問題2 ①都道府県（知事）

②住宅の応急修理、学用品の支給、埋葬、死体の捜索・処理、住居等の土石などの除去のうち、いずれか一つ。

問題3 エ

問題4 イ、ウ

問題5 ①

②

③

問題6 ①運動

②暑熱